

記念事業募金の支部目標額を達成



■発行
早稲田大学校友会
鹿児島県支部

■住所
鹿児島市平之町8-13
平田橋ビル2F
☎099-223-8388

平成18年度校友会 支部総会



平成十八年度早稲田大学校友会鹿児島県支部総会が七月二十九日、鹿児島市のいわさきホテルザビエル450で開催された。総会には、六月三十日に行われた総長選挙で再選されたばかりの白井克彦総長他三人の大学関係者を迎え、約七十人の校友・在校生父母らが参加した。

午後五時から開かれた総会では、平成十七年度事業報告、決算報告のほか、支部役員全員留任の件などの議題が、いずれも満場一致で承認された。最後に大学側を

代表して、口元周策校友会事務局長が挨拶に立ち、大学の近況や記念事業募金の状況などが報告された。

引き続き講演の部に移り、白井総長より「二十一世紀型の大学」という演題でスピーチが行われた。



白井総長は講演の冒頭、世間を大きく騒がせた研究費の不正使用問題に触れ、不祥事を遺憾としながらも、税金としての研究費を有効に使うことの難しさについて理解を求めた。

また二十一世紀型教育への取り組みに関し、NPO・NGOなども含め、教育を行う場所が多面的になってきており、世界の大学、学生にも目を向けながら進めていく必要があると語った。

続いて行われた懇親会では、会に先立ち、県支部が百二十五周年記念事業募金の目標を達成したことに対し、白井総長よ

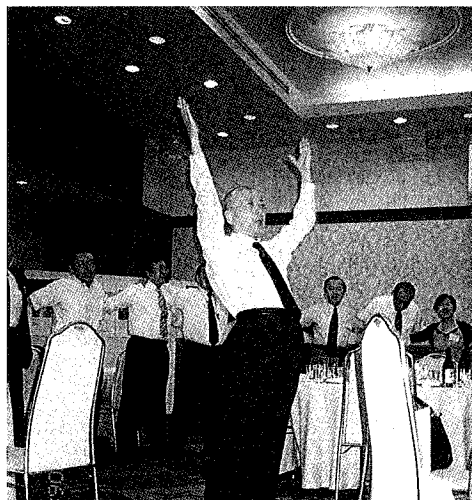


り県支部募金実行委員会委員長加藤一徳幹事長へ記念のフラッグが手渡された。また大西洋逸副支部長、川畑孝則事務局長に、母校への多額の寄付金贈呈に対する感謝状が贈られ、参加者より盛大な拍手が送られた。

その後新入会員の紹介のほか、校友や在学生父母から、県支部を激励する意見が出されるなど、和やかに会は進み、締めくくりは恒例により、応援部OBの岩坪信吉氏（52年社会科学部卒）指揮による、応援歌「紺碧の空」、校歌「都の西北」を、在学生父母も一緒に、全員で肩を組み斉唱し、総会は無事終了した。

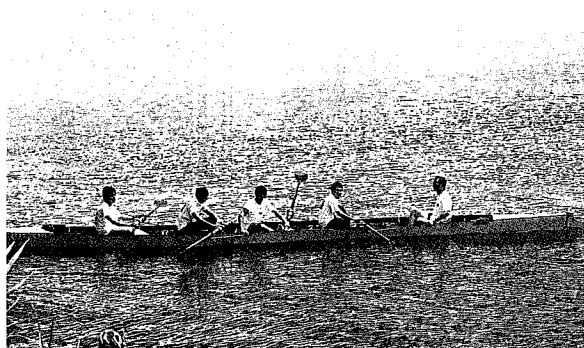
今回は、例年に比べ参加者も少なく、やや盛り上がりには欠けた印象を受けた。次の総会には、もっと幅広い年齢層から多くの方々に参加していただき、交流の裾野がさらに広がることを期待したい。

報告・常任幹事・辛島史朗
南日本新聞社経営企画局
(S55年法學部卒)



鹿児島稲門会が雪辱果たす！

早慶レガッタ観戦記



今回の川内レガッタは、七月二十一日に北薩地方を襲った豪雨災害のため、実施が危ぶまれ



ましたが、七月三十日の開催を八月二十七日に延期して行われました。前回の現役早慶ボート部による

ないもので、市街地にも避難勧告が発令された程でした。被害を受けられた方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、今回の早慶OB戦には、鹿児島稲門会、鹿児島三田会、北薩稲門会、北薩三田会のメンバー

なかでも前評判が高かったのは鹿児島三田会チームで、岩元会長の命により、若手を採用し必勝を期した「スペシャルチーム」という触れ込みでした。

一方、鹿児島稲門会チームも、ボート部OBの指導の下に、平均年齢は高いものの、強力メンバーで臨むことができました。

また北薩稲門会は、ここ十年間変わらぬメンバーで経験を生か

し、今年こそという意気込みであつたほか、北薩三田会も毎年メンバーが変わるものの、優勝経験が何度もあるチームです。さて当日は、午前十時頃には早慶の旗の下に、選手や校友がぞくぞくと集まり、両校の応援合戦も盛り上がる中、午前の最後のレースとしてOB戦が始まりました。毎年この点ながら、時間をかけてスタート地点に四艇が並び、突然スタートしました。

毒舌対抗戦は引き分け！

第13回鹿児島早慶懇親会

稲門会と三田会が交歓する鹿児島早慶懇親会が十一月三十日夜、



かせたダッシュ力であつたという間に一身艇のリード、二番手は鹿児島稲門会、三番手と四番手は、ほとんど差がないものの、どちらもすでに優勝は無理という感じでした。

ところが五百名のレースの残り百名というところで、鹿児島稲門会が踏ん張り、きれいなストロークで若さの鹿児島三田会を抜き去り、そのままゴールしました。

後は鹿児島三田会、北薩三田会、北薩稲門会と続きました。今年の優勝タイムは例年になく良

両校合せて約百二十人の校友が集まり、山形屋ファミリーストラで開催された。

南日本新聞社の月野浩二さん(S53年教育学部卒)が司会を務め、両校が校歌・塾歌斉唱後、松元茂支部長、岩元恭一三田会会長の挨拶があり、加藤一徳幹事長の乾杯で懇親会へと移った。

初出会者紹介に続いて行われた対抗戦結果報告では、稲門側が川内レガッタでの優勝を声高らかに発表したのに対し、ゴルフの対戦成績では稲門を圧倒している三田会が、鼻息荒く反撃して会場を沸かせた。

会の目玉であるお楽しみ抽選会

かつたはずですが。早稲田校友も予想を覆す勝利に大喜びでした。その後の懇親会も、昨年の雪辱を果たしたおかげで、早稲田側の会費は半額となり、レース観戦に引き続き出席された、三田会の岩元会長、稲門会の大西副支部長から力強い激励の言葉をいただいたほか、出席者全員のスピーチもあり、最後は全員肩を組んで、校歌塾歌を歌い、来年の再会を期して散会しました。

報告||北薩稲門会 飯屋立夫 (S49年法学部卒)

では、北海道の名産を揃えた多数の豪華景品に、会場が大いに盛り上がった。毎年この点ながら、ご提供くださった山形屋さんのご厚意に深く感謝したい。

宴もたけなわとなり、みんなで歌おうカレッジソングの部では、毎度おなじみの岩坪信吉さん(S52年社会科学部卒応援部OB)のユーモアあふれる語りに、両校が大爆笑のなか、全員が肩を組み、紺碧の空・若き血のカレッジソングの大合唱、エール交歓と進んだ。

最後に本坊浩幸三田会幹事長より締めめの挨拶があり、無事幕を閉じた。

報告||事務局長 川畑孝則 南生建設(株)副社長

(S46年商学部卒)